

カナダの高級品ビンナガマグロの発展

刀山 恵介

キーワード：ビンナガマグロ、漁業保全、減少する漁業資源

- (1) 序-北アメリカ最北端の国、カナダの歴史は常に資源の開拓の発展とともにあった。本章で議論されるのは、主にカナダ東部で崩壊したタラ漁と近年カナダ西部で崩壊に向かっている北太平洋鮭漁である。ビンナガマグロについては3章で述べる。
- (2) ブリティッシュコロンビアにおける漁業の歴史—ブリティッシュコロンビアは、漁業資源がなければ、今日のように発展することはなかった。しかし近年では、東カナダの漁場で起こったように、コモンスの悲劇がブリティッシュコロンビアのオープンアクセス漁場で起こり、魚資源が壊滅すると言ったケースが報告されている。近年では、ブリティッシュコロンビアの天然鮭の捕獲量も急激に減少している。
- (3) ビンナガマグロの刺身市場—ビンナガマグロは、非常に行動範囲が広い回遊魚である。近年の研究で明らかになってきたことは、日本近海から黒潮海流に乗ってカリフォルニア沖に達したビンナガマグロは、北アメリカ湧昇流に乗ってブリティッシュコロンビア沿岸まで北上するということである。これらブリティッシュコロンビア沖でとれるビンナガマグロは、水銀貯蓄量が他の成魚のビンナガマグロに比べて極端に低く刺身として転用できる。この事実に着目して、鮭の捕獲量が低い時にはこれらの資源の漁業に専念する漁師も近年では増えてきている。
- (4) 鮭とビンナガマグロの統計—ここでカナダ政府の環境管理庁から得たいくつかのデータを使って、ビンナガマグロの過剰捕獲がないかを推定する。このモデルの由来は Dasgupta と Heal が提唱したシロナガス鯨推定モデルにある。このモデルは、過剰捕獲が行われていないかをキャッチャーボート数と年間捕獲数量から割り出すものである。このモデルをビンナガマグロに使えるように修正したのが遠洋水産研究所の岡村寛氏である。ここでは、近年ビンナガマグロ漁に転換できる鮭漁地域で、鮭の捕獲量がどう変動しているかも分析する。
- (5) 将来の安定供給のために (MSC) —本章では、将来にわたって安定的にビンナガマグロを供給するための取り組みを紹介する。カナダ西部のビンナガマグロは主に二つの漁場から構成されている。一つは遠洋漁場でもう一つは比較的陸地に近い沖合漁場である。遠洋漁場では、今年(2009年1月)から MSC の認証審査が本格的に始まっている。この MSC という取組は、消費者に漁場を保全するコストを負担させ、消費する側の環境保全意識を高め、それによって資源を保全していく取組である。今後、これがいかにカナダのビンナガマグロ資源の保全に適用されるのかを議論する。